

第 25 回（令和 7 年度・2025 年度）
認定看護管理者教育課程セカンドレベル
募集要項

研修期間 9 月 9 日（火）～11 月 7 日（金）



公益社団法人福島県看護協会

目 次

I. 教育機関の概要	1
II. 認定看護管理者教育課程教育理念	1
III. 認定看護管理者教育課程セカンドレベルの教育計画について	1
1. 教育目的	
2. 到達目標	
3. 教科目と実施時間数	
4. 定員・日程・会場・受講料	
5. 教科目の単元と教育内容	
6. 研修日程	
IV. 受講申し込み方法	5
1. 申込期間	
2. 受講要件	
3. 提出書類	
V. 受講者の選考方法	5
1. 書類の確認	
2. 課題レポートの評価	
VI. 受講者の選考結果と受講手続き	5
1. 選考結果通知	
2. 受講手続	
VII. 修了要件等	6
1. 修了要件	
2. 再評価	
3. 再履修	
4. 修了審査	
5. 修了証書の交付	
VIII. 個人情報の保護、他	7
1. 個人情報の取り扱い	
2. Web 環境の準備	
3. その他	

別紙：提出書類 様式

I. 教育機関の概要

公益社団法人福島県看護協会（以下、本協会という）は、1993 年度に認定看護管理者教育課程ファーストレベル、1997 年度に同セカンドレベル、2014 年度に同サードレベルを開講した。2024 年度までにファーストレベルを 32 回、セカンドレベルを 24 回、サードレベルを 3 回開催している。各教育課程の修了者は、研修の学びを活かし修了者間のネットワークを深めながら、地域の保健医療福祉サービスの向上や各組織の発展に取り組んでいる。

II. 認定看護管理者教育課程教育理念

多様なヘルスケアニーズを持つ個人・家族及び地域住民に対して質の高い看護サービスを提供することをめざし、様々な状況に対応できる看護管理者を育成する。教育体制を整え、看護管理者の資質と看護の水準の維持及び向上に寄与することにより、保健医療福祉に貢献する。

III. 認定看護管理者教育課程セカンドレベルの教育計画について

1. 教育目的

看護管理者として基本的責務を遂行するために必要な知識・技術・態度を習得する。

ー公益社団法人日本看護協会 認定看護管理者カリキュラム基準【セカンドレベル】よりー

2. 到達目標

- 1) 組織の理念と看護部門の理念の整合性を図りながら担当部署の目標を設定し、達成に向けた看護管理過程を展開できる。
- 2) 保健・医療・福祉サービスを提供するための質管理ができる。

3. 教科目と実施時間数

（ ）は教科目の規定時間数

教科目	時間数	教科目	時間数
ヘルスケアシステム論Ⅱ	18（15）	資源管理Ⅱ	18（15）
組織管理論Ⅱ	30（30）	質管理Ⅱ	30（30）
人材管理Ⅱ	45（45）	統合演習Ⅱ	45（45）
計		6教科 186（180）時間	6時間/日 31日間

4. 定員・日程・会場・受講料

定員	40 名
受講申込期間	5 月 1 日（木）～ 25 日（日）
受講者選考結果通知	6 月下旬に通知予定
研修ガイダンス	7 月 29 日（火）9：30～16：30
研修開講期間	9 月 9 日（火）～11 月 7 日（金）9：30～16：30 9：20～受講者ミーティング
会場	福島県看護会館みらい 福島県郡山市本町一丁目 20 番 24 号
受講料	・ 421,620 円 （一般） ・ 211,000 円 （日本看護協会会員）
受講料振込期限	7 月 1 日（火）～15 日（火）

5. 教科目の単元と教育内容

() …教科目の規定時間数 *…教育課程外の時間

教科目・時間・目標	単元	教育内容	時間
ヘルスケアシステム論Ⅱ 18 (15) 時間 1. 社会保障制度の現状と課題を理解する。 2. 保健・医療・福祉サービスを提供する上で必要な基本的考え方と具体的な方法について、現状と課題を理解し、連携の在り方を考えることができる。 3. 多職種・他部門・他施設・地域等との協働・連携の方法論について理解する。	社会保障制度の現状と課題	・日本における社会保障 人口構造、疾病構造の変化 社会保障費の（財源）構造と推移	6
	保健医療福祉サービスの現状と課題	・保健医療福祉サービスの提供内容の実際 病院、看護小規模多機能型居宅介護、訪問看護ステーション等	3 3 3
	ヘルスケアサービスにおける多職種連携	・多職種によるチームケア提供の実際と課題	3
組織管理論Ⅱ 30 (30) 時間 1. 最良の看護サービスを提供するための組織構築について、分析方法を理解する。 2. 組織運営に関する諸理論に基づき、担当部署の看護管理過程を評価し、質向上のための方策について考えることができる。 3. 看護管理における倫理的課題と倫理的意志決定の在り方を考えることができる。	組織マネジメントの実際	・組織分析（組織マネジメント） ・組織分析（分析方法） ・組織の変革 ・組織の意思決定	6 12 6
	看護管理における倫理	・看護管理における倫理的課題 ・看護管理における倫理的意志決定	6
人材管理Ⅱ 45 (45) 時間 1. 看護管理に必要な人事・労務管理を理解する。 2. 組織の理念、経営目標を達成するための中心的要素である人材の確保・育成・活用等、人的資源管理に必要な知識・技術・態度について理解する。 3. 看護職者のキャリア開発について概念・理論、具体的方法について理解する。	人事・労務管理	・人員配置 勤務計画 タイムマネジメント ・ワークライフバランスの推進 ・労務管理に関する今日的課題と対策 ・労働災害と対策ハラスメント予防策と対応 ・ストレスマネジメント	6 6 6
	多職種チームのマネジメント	・コンフリクトマネジメント ・人的資源の活用 リーダーシップの実際 ・看護補助者の育成	9 6
	人を育てるマネジメント	・キャリア開発支援 ・人材育成計画	6 6
資源管理Ⅱ 18 (15) 時間 1. 医療経済の構造・現状について学び、経営指標の活用について理解する。 2. 看護管理における情報管理を理解し、活用するための方策を考えることができる。	経営資源と管理の実際	・医療収支 ・経営指標の活用 ・費用対効果 ・適切な療養環境の整備	6 6
	看護管理における情報管理	・看護の評価・改善のための情報活用	6
質管理Ⅱ 30 (30) 時間 1. 医療看護におけるクオリティマネジメントについて理解できる。 2. 法令を理解し、安全管理の実際を考えることができる。 3. 災害対策および災害マネジメントについて理解できる。	看護サービスの質保証	・クオリティマネジメント 医療・看護におけるクオリティマネジメント ・クオリティマネジメントの実際	6 6
	安全管理	・安全管理教育 ・法令遵守 ・安全管理の実際 ・災害対策（BCPの考え方と看護管理）	6 6 6 6
統合演習Ⅱ 45 (45) 時間 1. 中間管理者としてのビジョンを明確にし、現状とのギャップに目を向けることができる。 2. 担当部署の現状分析を行い、取り組むべき具体的な管理課題を抽出することができる。 3. 課題解決に向けて理論を活用し、9～10 か月間で実践可能な計画を立案することができる。 4. 他施設の組織運営の実際を知ることで、地域連携のあり方を理解できる。	演習	・自部署の組織分析に基づいた実践可能な改善計画を立案する。	30
	実習	・地域連携を理解するための他施設実習を行う。 (実習施設は、受講者自身の所属種別以外の施設とする。)	15
特別講義	ガイダンス	・オリエンテーション	*3
		・レポート・論文の書き方	*2
開講式	開講オリエンテーション	/	修了式
			*3

6. 研修日程 研修日程は、以下の通り。

令和7年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル日程表 A

月日	曜	9:30～12:30	備 考	13:30～16:30	内 容
7/29	火	研修ガイダンス		特別講義 1	
9/ 9	火	開講式		ヘルスケアシステム論Ⅱ	保健医療福祉サービスの提供内容の実際
9/10	水	組織管理論Ⅱ		組織管理論Ⅱ	組織分析
9/11	木	統合演習Ⅱ		自己学習	実習計画
9/12	金	組織管理論Ⅱ		組織管理論Ⅱ	組織分析(分析方法)
9/13	土	組織管理論Ⅱ		組織管理論Ⅱ	組織分析(分析方法)
9/16	火	資源管理Ⅱ		資源管理Ⅱ	医業収支・経済指標
9/17	水	組織管理論Ⅱ		組織管理論Ⅱ	組織の変革・組織の意志決定
9/18	木	ヘルスケアシステム論Ⅱ		ヘルスケアシステム論Ⅱ	日本における社会保障
9/19	金	統合演習Ⅱ		統合演習Ⅱ	現状分析
9/20	土	人材管理Ⅱ		人材管理Ⅱ	キャリア開発支援
9/24	水	ヘルスケアシステム論Ⅱ		ヘルスケアシステム論Ⅱ	病院におけるサービス提供
9/25	木	質管理Ⅱ		質管理Ⅱ	クオリティマネジメントの実際
9/26	金	資源管理Ⅱ		資源管理Ⅱ	適切な療養環境
9/27	土	質管理Ⅱ		質管理Ⅱ	医療におけるクオリティマネジメント
9/30	火	質管理Ⅱ		質管理Ⅱ	安全管理教育・法令遵守
10/1	水	質管理Ⅱ		質管理Ⅱ	安全管理の実際
10/2	木	ヘルスケアシステム論Ⅱ		自己学習	保健医療福祉サービスの提供(在宅)
10/3	金	統合演習Ⅱ		統合演習Ⅱ	課題の明確化
10/4	土	人材管理Ⅱ		人材管理Ⅱ	人員配置・勤務計画・タイムマネジメント
10/6	水	～ 10/8 金		統合演習Ⅱ(実習1日)	
10/15	水	統合演習Ⅱ		自己学習	課題の明確化
10/16	木	統合演習Ⅱ		統合演習Ⅱ	実習報告会
10/17	金	資源管理Ⅱ		資源管理Ⅱ	看護の評価・改善のための情報活用
10/18	土	組織管理論Ⅱ		組織管理論Ⅱ	看護管理における倫理的課題・倫理的意思決定
10/22	水	人材管理Ⅱ		人材管理Ⅱ	人材育成計画
10/23	木	人材管理Ⅱ		人材管理Ⅱ	人的資源の活用
10/24	金	統合演習Ⅱ		統合演習Ⅱ	戦略・指標
10/27	月	人材管理Ⅱ	Web	人材管理Ⅱ	コンフリクトマネジメント
10/28	火	人材管理Ⅱ	Web	自己学習	コンフリクトマネジメント
10/29	水	人材管理Ⅱ		人材管理Ⅱ	ワークライフバランス・労務管理に関する今日的課題
10/30	木	統合演習Ⅱ		自己学習	実践計画書の作成
11/5	水	人材管理Ⅱ		人材管理Ⅱ	ストレスマネジメント
11/6	木	質管理Ⅱ		質管理Ⅱ	災害対策(BCP の考え方と看護管理)
11/7	金	統合演習Ⅱ		統合演習Ⅱ	

令和7年度認定看護管理者教育課程セカンドレベル日程表B

	日	月	火	水	木	金	土
1週目		7月29日(火)	9月9日	9月10日	9月11日	9月12日	9月13日
教科目		ガイダンス	開講式	組織管理論Ⅱ	統合演習Ⅱ	組織管理論Ⅱ	組織管理論Ⅱ
内容			(午前)オリエンテーション	組織分析 (組織マネジメント)	実習計画(午前)	組織分析 (分析方法)	組織分析 (分析方法)
教科目		特別講義	ヘルスケアシステム論Ⅱ				
内容		レポートの書き方	保健医療福祉サービスの提供内容の実際				
講師		(午後)	(午後)				
日数累計			0.5	1.5	2	3	4
2週目	9月14日	9月15日	9月16日	9月17日	9月18日	9月19日	9月20日
教科目		敬老の日	資源管理Ⅱ	組織管理論Ⅱ	ヘルスケアシステム論Ⅱ	統合演習Ⅱ	人材管理Ⅱ
内容			医業収支・経済指標	組織の変革・組織の意志決定【聴講】	日本における社会保障	①現状分析	キャリア開発支援
日数累計			5	6	7	8	9
3週目	9月21日	9月22日	9月23日	9月24日	9月25日	9月26日	9月27日
教科目			秋分の日	ヘルスケアシステム論Ⅱ	質管理Ⅱ	資源管理Ⅱ	質管理Ⅱ
内容				病院におけるサービス提供 多職種によるチームケアの 提供の実際と課題	クオリティマネジメントの実際	適切な療養環境	医療におけるクオリティマネジメント
日数累計				10	11	12	13
4週目	9月28日	9月29日	9月30日	10月1日	10月2日	10月3日	10月4日
教科目			質管理Ⅱ	質管理Ⅱ	ヘルスケアシステム論Ⅱ	統合演習Ⅱ	人材管理Ⅱ
内容			安全管理教育・法令遵守	安全管理の実際	保健医療福祉サービスの提供(在宅) (午前)	②課題の明確化	人員配置・勤務計画・タイムマネジメント
日数累計			14	15	15.5	16.5	17.5
5週目	10月5日	10月6日	10月7日	10月8日	10月9日	10月10日	10月11日
教科目			統合演習				
内容			実習(期間中一日間 実習先と日程調整)				
日数累計		18.5					
6週目	10月12日	10月13日	10月14日	10月15日	10月16日	10月17日	10月18日
教科目		スポーツの日		統合演習	統合演習	資源管理Ⅱ	組織管理論Ⅱ
内容				③課題の明確化(午前)	実習報告会	看護の評価・改善のための情報活用	看護管理における倫理的課題・倫理的意思決定
日数累計				19	20	21	22
7週目	10月19日	10月20日	10月21日	10月22日	10月23日	10月24日	10月25日
教科目				人材管理Ⅱ	人材管理Ⅱ	統合演習Ⅱ	
内容				人材育成計画	人的資源の活用	④戦略・指標	
日数累計				23	24	25	
8週目	10月26日	10月27日	10月28日	10月29日	10月30日	10月31日	11月1日
教科目		人材管理Ⅱ	人材管理Ⅱ	人材管理Ⅱ	統合演習Ⅱ		
内容		コンフリクトマネジメント	コンフリクトマネジメント	ワークライフバランス ・労務管理に関する今日的課題	⑤実践計画書の作成		
場所		Web	Web(午前)	研修室1	(午前)		
日数累計		26	26.5	27.5	28		
9週目	11月2日	11月3日	11月4日	11月5日	11月6日	11月7日	11月8日
教科目		文化の日		人材管理Ⅱ	質管理Ⅱ	統合演習Ⅱ	
内容				ストレスマネジメント	災害対策(BCPの考え方と看護管理)	⑥演習報告会	R8/1/30(金) 修了式
日数累計				29	30	31	

※研修日程は、講師都合等で変更になる場合があります。

IV. 受講申込み方法

1. 申込期間 5月1日(木)～25日(日)

2. 受講要件 下記の1)～3)の要件をすべて満たしている者

- 1) 日本国の看護師免許を有する者。
- 2) 看護師免許を取得後、実務経験が通算5年以上ある者。
- 3) 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了している者。または看護部長相当の職位にある者、もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている者。

※副看護部長相当の職位とは、保健医療福祉に関連した組織において看護管理を行う立場を指す。

3. 提出書類

下記について、必要事項を記入し申込期間内に福島県看護協会ホームページの「教育研修管理システム」(EZ セミナー) から申込みを行う。

1) 認定看護管理者教育課程ファーストレベルを修了している方は次を準備する。

- (1) 受講申込書 (様式A)
- (2) 課題レポート (様式B-①、②)
- (3) ファーストレベル修了証書の写し

2) 認定看護管理者教育課程ファーストレベルは修了していないが、看護部長相当の職位にある者もしくは副看護部長相当の職位に1年以上就いている方は、次を準備する。

- (1) 受講申込書 (様式A)
- (2) 課題レポート (様式B-①、②)
- (3) 勤務証明書 (様式C)

※申し込み時には各自事前に、「マイページ」の開設が必要である。

申込時に令和7年度の会費納入手続きが完了している方は、会員として申し込みが可能である。施設とりまとめ申し込みの場合も、受講者の「マイページ」の開設が必要である。

※施設取りまとめ申し込みの場合は、施設担当者の「マイページ」開設が必要である。施設のパスワード等の郵送で1週間程度かかるため、早めに施設「マイページ」開設を行う。 → 詳しくは、こちらのQRコードから確認する。



V. 受講者の選考方法

次について、認定看護管理者教育課程運営委員会が審査し決定する。

1. 書類の確認

書類により受講要件を満たしていることを確認する。

2. 課題レポートの評価

評価基準(表1)に基づいて課題レポートの評価を行う。

- ・課題：自施設の現状を分析し、自身の立場で取り組みたい課題について述べよ。
- ・テーマ：自己のテーマを挙げる。
- ・書式：A4用紙1頁、1,300～1,400字(本文のみ)にまとめる。

フォントは、MS明朝、テーマは12ポイント、本文は10.5ポイントにする。

表1 課題レポートの評価基準

(50 点満点)

評価項目	評価の視点	評価点
中間管理職としての考え	<ul style="list-style-type: none"> ・ 自施設の現状を分析している ・ 自分の立場をふまえている ・ 看護管理上の課題と今後の方向性を明確にしている ・ テーマと論旨に一貫性がある 	40
スタイルとフォーマット	<ul style="list-style-type: none"> ・ 適切な表現を用いている ・ 誤字、脱字がない ・ 文字数は、1,300～1,400 字以内にまとめている 	10

・ 認定看護管理者教育課程運営委員が評価基準（表2）に沿って評価し、2名の合計100点満点とする。

VI. 受講者の選考結果と受講手続き

1. 選考結果通知

6月下旬にマイページを介して通知する。

2. 受講手続

1) 受講決定通知・受講請求書に基づき期日までに次の方法で支払う。

(1) 会員は、受講料をコンビニエンスストア等で支払う。

受講料には受講審査料・修了審査料・実習謝礼・消費税・振込手数料を含む。

(2) 一般の方は、受講料を銀行振込で行う。振込先は、後日連絡する。

受講料には、受講審査料・修了審査料・実習謝礼・消費税を含む。

振込手数料は、別途必要である。

2) 受講決定後、受講を辞退する場合は、看護協会へ連絡する。

(1) 納入された受講料は、受講を辞退された場合でも返金しない。

VII. 修了要件等

1. 修了要件

1) 全教科目の修得をもって修了とする。

2) 教科目の修得とは、以下の項目を満たした場合をいう。

(1) 出席時間：各教科目の所定の時間数の4/5以上の出席がある。

(2) 各教科目の評価：各教科目の評価が、「A」「B」「C」「D」の4段階で、「C」以上である。「A」：80点以上 「B」：79～70点 「C」：69～60点 「D」：59点以下

2. 再評価

再評価の事由と手続き、評価は次のとおりである。

1) 再評価の事由

教科目の評価が、「D」評価の場合は、1回に限り再評価を受けることができる。

2) 再評価の手続き

「教科目再評価願」に、再評価料の払込み受領証のコピーを添えて申し込む。

3) 再評価の評定

再評価の評定は、「C」または「D」とし、「C」を合格とする。

3. 再履修

再履修の事由と手続き、評価は次のとおりである。

- 1) 再履修の事由に該当する教科目は、次回の当該教育課程開催年度に限り、申請により再度履修することができる。
 - (1) 出席時間：教科目の出席時間が 4/5 を満たさなかった
 - (2) 教科目評価：教科目の再評価結果が「D」であった
- 2) 再履修の手続き
 - (1) 再履修を希望する場合は「教科目再履修願」を次回の研修申込期間中に提出する。
 - (2) 認定看護管理者教育課程運営委員会の受講審査決定後に受講料の払込票を送付する。
 - (3) 受講料の払込後に再履修が可能になる。
- 3) 再履修の評価
再履修の評価は、「A」「B」「C」「D」とし、「C」以上を合格とする。

4. 修了審査

修了者は、認定看護管理者教育課程運営委員会で修了要件に基づき審査のうえ、決定する。

5. 修了証書の交付

修了者には、「修了証書」を交付し「教科目評価結果表」を添付する。

VIII. 個人情報の保護、他

1. 個人情報の取り扱い

本協会の個人情報保護方針・個人情報保護規程および文書管理規程に基づき、個人情報の取得・利用・廃棄を適切に行う。申込みに際して提供いただく個人情報は、研修会に伴う書類作成、発送に用い、この利用範囲を超えて取り扱うことはしない。

2. Web 研修の準備

開講までに次のWeb受講環境の準備を行う。

- 1) パソコン（カメラ・マイク付、インターネット回線に円滑に繋がる環境、ウィルス対策ソフト、Zoom アプリ）
- 2) 受講場所の確保

3. その他

1) 提携ホテル

次のホテルは、当協会の提携ホテルになっている。予約の際に福島県看護協会会員であることを伝えると、割引料金もしくは特別料金でご利用できる。

ダイワロイネットホテル郡山駅前	TEL 024-927-4855
アパホテル郡山駅前	TEL 024-923-9111
郡山セントラルホテル	TEL 024-923-2255

2) 連絡・問い合わせ先

〒963-8871 福島県郡山市本町一丁目 20 番 24 号
公益社団法人福島県看護協会 教育・事業課 TEL (024) 934-0512 (代表)